

## 当施設における喫煙に関する調査報告

○渡邊貴信、櫛田さおり、松井敏光、三浦利恵子、近藤好恵、鈴木英子  
公益財団法人郡山市健康振興財団

### 【はじめに】

当施設では健康診査を行っており、問診や診察時に喫煙者に禁煙の意識づけを行っている。そこで当施設利用者のみを対象とした喫煙率を算出することで、利用者により身近なデータを提供するとともに、喫煙者数減少の一助となりえる要素の発見を目的としている。今回、当施設にて喫煙に関する調査を行ったので報告する。

### 【方法】

令和4年～5年度の2年間で、当施設で健康診査を受けた方を対象とし、問診表にて喫煙状況を調査した。たばこの種類別割合と、喫煙率を算出し、全国喫煙率、福島県喫煙率との比較を行った。

### 【結果】

当施設喫煙率は令和4年度（対象者 11,848名）：総喫煙率 22.0%、男性喫煙率 35.3%、女性喫煙率 8.8%、令和5年度（対象者 11,372名）：総喫煙率 20.3%、男性喫煙率 33.6%、女性喫煙率 7.9%であった。当施設総喫煙率については全国より高く、福島県とほぼ同等であった。男女別喫煙率では福島県と比較して若干の違いが見られ、男性はより高く、女性は低い結果となった。

また、令和5年度のたばこの種類別割合は前年度と比較し、紙巻きたばこが減少し、加熱式たばこと両方の割合が増加した。

### 【考察】

当施設総喫煙率が全国より高く、福島県と同等であるのは地域性の影響が考えられる。福島県は全国的にみても喫煙率が高いため、当施設でも高い喫煙率となったと推察される。当施設利用者で男性の喫煙率が高くなる要因としては、対象者の違いが考えられる。国民生活基礎調査は20歳以上の全年齢を対象としているが、当施設は、企業による健診が多いため、若年～中年層が多く、男性では働く世代の喫煙率が高いため、当施設喫煙率が高い結果となったと考えられる。また、たばこ種類別割合と合わせると、加熱式たばこの普及により喫煙できる機会・場所が増えたこと、加熱式たばこが喫煙によるリスクを軽減できるといった誤った考えにより、禁煙への意欲が減少している可能性も考えられる。

### 【まとめ】

当施設喫煙率の算出し、全国や福島県と比較し、男性の喫煙率が高い傾向があった。男性が多い職場では喫煙が一種のコミュニケーションになっている場合もあり、男性喫煙率の高さの要因になっていると考えられる。今後の課題として、特定層に強くアピールできるような方法を検討していきたいと考える。